

ソフトウェア高信頼化センターの 地域支援活動について

IT利活用を支えるソフトウェア技術の地方への展開状況報告

SEC調査役 久保 忠伴 SEC研究員 藤原 由起子 SEC研究員 小長谷 義浩

少子高齢化、人口減少による対策として、地域経済の活性化のための地方支援策が活発に実施されている。SECでは、IoT時代における安全・安心なIT構築とその利活用に向けた地域支援活動を推進している。IT化を進める際のポイントや注意点、成功事例・失敗事例などを全国のIT関係者と共有するために、地域の団体との連携による共催セミナーの開催や講師派遣などの支援活動を行っている。ここでは、地域に向けた支援活動の方針や2017年度の計画と実施状況を報告する。

1 地域の状況と支援活動の方針

地域・中小企業の状況は、中小企業庁が課題を提示^{*1}、総務省はIoT時代に即した地域モデルを提示^{*2}している。これらを踏まえて、SECは、IT化による地域経済の活性化に向けて以下の方針で支援活動を推進している。

<基本方針>

夢のある安全・安心なIT社会の実現に向け、地域による、地域のための、地域に即した活動を支援

2 支援活動の戦略(3本の矢)

SECは、情報システムの信頼性向上を担う政策実施機関として、関連情報の収集・分析を行っている。更に、産学連携のハブとしてそこで得られた知見の共有・普及活動を行っている。地域支援に関しては、長年培ってきたSECの事業成果と知見を活用し、地域のイノベーションの実現を支援するために以下を地域支援活動戦略の3本の矢として推進している。

- ① 地域団体と連携した支援活動
(地域のIT関連団体、行政機関との連携)
- ② 地域に即したSEC技術資産の提供
(地域の特性、ニーズに応じた活動)
- ③ エリア戦略による計画的な支援活動
(地域の意欲を考慮して計画的に実施)

以下にその内容を解説する。

2.1 地域団体と連携した支援活動

地域主導の活動を行うために地方経済産業局・自治体、IPA関連団体、地域団体をパートナーとして以下の3つの観点から共創の実現を目指している。

- ① 政策連携：地方経済産業局や自治体が進めている政策課題解決策とSECの活動がシナジーを生み出すような活動連携
- ② IPA関連団体との連携：ITコーディネータ協会(ITCA)、組込みシステム技術協会(JASA)などとの連携
- ③ 地域団体との連携：地域活動の主体である団体(各県の情報サービス産業協会やNPO法人、協議会など)との連携

2.2 地域に即したSEC技術資産の提供

地域に普及するSECの技術資産としては、SECが現在取り組んでいるIoTなどの技術分野を中心に選定している(表1参照)。具体的には、IoT、システムズエンジニアリング、上流工程の強化、安全性解析手法(STAMP/STPA)、情報処理システムの障害対策、その他(見える化手法、定量的プロジェクト管理、ソフトウェアライフサイクルプロセス、プロセス改善手法などのITシステムの構築技術)があり、地域のニーズに即したテーマを組み合わせ提供している。

表1 SECが提供するIT技術資産

技術分野	内容
つながる世界(IoT)	「つながる世界の開発指針」ほかIoTの安全・安心を確保するための考え方
上流工程の強化(要件定義、再構築)	「ユーザーのための要件定義ガイド」ほかユーザー企業が抜け漏れのない要件定義を行うためのガイド
情報処理システムの障害対策	「情報処理システム高信頼化教訓集」システムの障害事例の分析、体系化から得られる教訓
安全性解析手法STAMP/STPA	「はじめてのSTAMP/STPA」、「はじめてのSTAMP/STPA 実践編」複雑なシステムの安全性評価に対応した新しい手法
システムズエンジニアリング	「経営者のためのシステムズエンジニアリングの薦め」IoT時代のビジネスに必要な新しい開発アプローチの必要性和有用性の説明
その他	定量的プロジェクト管理などのITシステムの構築技術全般

表1に関連した内容を、SEC BOOKSや報告書として公開している。
<https://www.ipa.go.jp/sec/publish/index.html>

2.3 エリア戦略による計画的な支援活動

地域支援を具体的に実施するにあたり、支援活動の効率性と効果性を考慮して、地域を8ブロック(北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄)に分けて、以下の3点と地域の特性や地域産業の強みや弱みと事業機会に関するポートフォリオを意識した活動を進めている。

表2 今年度の実施状況

地域区分	開催地	区分	連携団体	開催時期	技術分野
北海道	札幌	講師派遣	札幌市	5月	情報処理システムの障害対策
		共催セミナー	北海道ソフトウェア技術開発機構、北海道経済産業局	9月	つながる世界 (IoT) と上流工程の強化(要件定義、再構築)
		講師派遣	北海道ソフトウェア技術開発機構	10月	上流工程の強化(要件定義、再構築)
東北	岩手	講師派遣	岩手県情報サービス産業協会	10月	上流工程の強化(要件定義、再構築)
関東	埼玉	講師派遣	埼玉ITコーディネータ	5月	つながる世界 (IoT)
	神奈川	講師派遣	横浜市、横浜企業経営支援財団	6月	つながる世界 (IoT)
	静岡	講師派遣	静岡大学 情報部、組込みソフトウェア技術コンソーシアム(HEPT)	10月	安全性解析手法 STAMP/STPA
近畿	大阪	講師派遣	ITC近畿会	7月	上流工程の強化(要件定義、再構築)
		講師派遣	関西情報センター、組込みシステム産業振興機構	10月	つながる世界 (IoT)
	京都	共催セミナー	電子情報技術産業協会(JEITA)	9月	安全性解析手法 STAMP/STPA
中国	鳥取	講師派遣	鳥取県情報産業協会	9月	つながる世界(IoT)と定量的プロジェクト管理
九州・沖縄	大分	共催セミナー	ハイパーネットワーク社会研究所	5月	つながる世界 (IoT)
	福岡	講師派遣	九州組込みソフトウェアコンソーシアム(QUEST)	8月	つながる世界 (IoT)
	熊本	講師派遣	熊本県情報サービス産業協会	9月	情報処理システムの障害対策

- ① 意欲的だが、取り組みが計画段階の地域・団体
- ② 意欲的にIT化の取り組みを始めた地域・団体
- ③ 自主的に活発な活動を行っている地域・団体

3 2017年度の地域支援状況

3.1 地域との連携によるセミナー実施概要

2017年度は、IT化への積極的な取り組みを行っている5地区(北海道、東北、関東、近畿、九州・沖縄)を中心として、計画的に実施している。また、5地区以外の団体から要請があった場合には、個別に講師を派遣して対応している。実施状況を表2に示す。

3.2 共催セミナーの実施例

共催セミナーのテーマについては、地域ごとの特色を考慮して地域の共催団体と協力し、企画・開催している。実施結果を以下に示す。

(1) 九州地区(大分県) 2017年5月 開催

- テーマ：「デジタル時代に向けた大分イノベーション～OITA4.0の実現に向けて～」
- 技術分野：つながる世界 (IoT)
- 実施形態：共催セミナー
- 共催団体：ハイパーネットワーク社会研究所
- 参加者数：130名

「つながる世界の開発指針」やIoT事例の紹介、大分イノベーション実現への課題を討議した地元の方々とのパネルディスカッションを通して、地元企業の皆様のIoTへの関心を高めることができた。



図1 大分での会場風景とパネルディスカッションの様子

(2) 北海道地区(札幌) 2017年9月 開催

- テーマ：「デジタルイノベーションで創るスマートな北海道～経営者に必須な「IoT導入の指針とつながる世界の要件定義の重要性」の解説～」
- 技術分野：つながる世界 (IoT) と上流工程の強化
- 実施形態：共催セミナー
- 共催団体：北海道ソフトウェア技術開発機構、北海道経済産業局
- 参加者数：67名

つながる世界 (IoT) の留意点や上流工程の強化の重要性を解説し、新しいサービスやビジネスに取り組む際の安全・安心への関心を高めることができた。また、札幌市IoTイノベーション推進コンソーシアムの活動状況、北海道内地元企業のIoT事例の講演を通して、参加者の皆様へIoT等に関する道内の情報を紹介することができた。



図2 北海道セミナーの様子

なお、共催セミナーの詳細は下記Webサイトで公開している。
<https://sec.ipa.go.jp/seminar/index.html>

4 今後の課題

地域・中小企業に向けた支援活動は、点から線へ、線から面への展開戦略に沿った活動が効果を生むと考えられるため、地域団体との連携を重視している。また、今年度は、意欲的な活動を推進している地区を中心に活動している。今後、ほかの地区についても、ニーズの度合いや、地域の実情を探りながら支援活動を検討していきたい。

本稿の内容に関するお問い合わせ、地域IT活性化の検討についてのご質問・ご相談などは、下記までご連絡ください。(問合せ先：sec-pr@ipa.go.jp)

脚注

- ※1 <http://www.chusho.meti.go.jp/koukai/kenkyukai/smartsme/2017/170606smartsme02A.pdf>
- ※2 http://www.soumu.go.jp/main_content/000487304.pdf